

H29第2回中央区まちづくり懇話会実施報告

実施日 平成29年8月23日 15：30～17：00

場 所 熊本市役所本庁舎14階大ホール

参加者 懇話会委員16名

内 容 ◆議事

「平成29年度まちづくり推進事業進捗報告」

◆意見交換

「中央区の特徴や課題についてのアプローチ」



意見交換会の様子



担い手の育成

- ・高齢化や人口減少のためコミュニティ機能が希薄化しつつある。
- ・催し物の反省会でも担い手不足がよく話題になる。
- ・学生の中には、地域に入りたいと思っている人も多いと聞すが、参加する人は少ない。

- ・個人で自治会活動に参加するのはなかなか難しい。
- ・自治会活動の情報源がどこか分からないため参加しにくい。
- ・自治会は、ご高齢の方が活動されているイメージがある。学生でも参加して良いのか迷う。

- ・居住地より通勤・通学地域での地域活動への参加の方が、ハードルが低いのではないかと。現在社会とつながっている部分からアプローチを行う。学校や企業の単位で参加してもらう。
- ・とにかく声をかけ、活動の周知を行うなど、積極的に行動する。
- ・具体的に手伝って欲しいことを挙げる。切り口が明確だと入りやすい。
- ・小中高の授業の一環で、自治会活動の重要性を学び参加を促す。
- ・祭りを開催する。単発ではあるが、自治会関係者と地域の人々が出会うきっかけになる。学生・若い世代・高齢者も巻き込んで祭りの店を出させるのも面白い。

⑤若い世代と高齢者の世代が互いにできないことを補い合う。⇒若い世代には、火事など緊急時の対応や防犯を、高齢者世帯には子どもの育成をしてもらう。

⑥コンビニ等の社会的資源の活用を行う。

「中央区の特徴や課題についてのアプローチ」

電子媒体による情報共有

■現 状

- ・熊本地震をふまえ、行政情報がなかなか伝わらなかったとの意見が出あった。
- ・若い世代が地域活動等に参画したいと思っても、ほしい情報がわからないことなどあり。
- ・子ども会などでもLINEが情報共有に使われている。
- ・福岡では、今年4月からのLINEを使った情報提供を行っているが、すでに30万人近い人数に上る。当初、若者に向けての活用と考えていたが、意外と30代、40代の働いてる世代利用が多いそうだ。

■課 題

- ・熊本市公式アカウント（LINE）の作成。年齢、性別、地域等の登録をしてもらい、行政情報や地域の情報を提供する予定。公式アカウントをフォローしてもらうにはどうしたらよいか。

■対 応

- ・LINEスタンプや割引券などがあるとフォローする。定期的なサービスがあるとブロックされないのでは。
- ・熊本市のオリジナルスタンプを作る。（ワピ・ス・知軍曹等のアニメキャラクター、ひごまるなど）
- ・ごみ出しカレンダーを電子化し、「今日が燃えるゴミの日ですよ」などとお知らせがあると、少しでもゴミのルール違反が少なくなるのではないか。
- ・横浜の試験的な事例で、人工知能（AI）を利用したごみ出し方法の質疑応答が話題になった。
- ・一方的な情報提供でなく、質問に答えるきめ細かい情報提供ができるとよい。
- ・地震等の災害時に、水道管破裂や道路の亀裂などの危険場所の情報を電子媒体でもらうことですばやい対応ができる。

「中央区の特徴や課題についてのアプローチ」

マンション世帯の自治会活動への参加

■現 状

- ・オートロックの普及でマンションの中に入れない。（特に管理人さんがいないところ）
- ・マンション内のコミュニティも希薄なのではないか？
- ・地震をきっかけにマンションのコミュニティが活性化した例があった。
- ・お母さんたちの情報力と行動力はすごい。コミュニティもある。

■課 題

- ・自治会とマンションの連携が必要。
- ・防災についての話し合いや防災訓練はこれからしないといけない。
- ・マンション内のPTA子供会の役員等、リーダーの存在が必要。
- ・自分のマンションの活性化をやるときにまじめなことをやっても参加しにくい。

■対 応

- ・ポイントは子ども会。⇒子どもが来れば親も参加。
- ・子どもが参加できるようなイベントの開催。
- ・防災をキーワードとして何かができないか？
⇒校区単位では広すぎるので、マンション単位でハザードアップを作成しては？
- ・各フロアに一人ずつ責任者を決めて、ライン（仲間）に入ってもらおう。
- ・学校のクラスラインやマンションラインに自治会の情報を流してもらおう。
- ・女性はランチ会、男性は飲み会（おやじの会）を実施する。
- ・情報交換の集まりを設定するときに、お楽しみを準備する。
- ・マンションから集まった町費から、マンションへの活動助成金を出す。

「中央区の特徴や課題についてのアプローチ」

若者の地域参画

■現 状

- 地域の夏祭りを開催するにあたって、近隣の大学や高校へ参加の呼びかけをしたところ、何かできないかという声かけがあり、夏祭り終了後に力仕事を手伝ってくれた。
- 月に1度、自治会長と学生（おそろいのジャンパーを着用）でゴミステーションの見回りをしている。見回りをする事でかなりの違反ゴミが減った。
- 地震の時は、児童・学生が率先して動いてくれた。
- 学生の自治会活動への参加は少ない。本人に直接呼びかけをすると参加してくれるかもしれない。

■課 題

- ボランティアに参加する学生の中にもコミュニケーションに慣れていない学生もいるようで、来てくれても、実際に行動をする学生が少ないこともある。
- 地域の「餅つき」の際に、「つき手」として高校生や大学生が参加してくれると助かる。
- 若者の地域活動への参加にはメリットがある⇒大人・社会人とのコミュニケーション能力の育成。

■対 応

- 学生はきっかけや声かけがあれば動いてくれるのではないかな。
- 学校としての組織力を活かした地域参画を促す。
- 若者が参加しやすいイベントがあれば、若者の参加が増えるのではないかな。
- 学生には、照れ・気まずさがハードルとなり、知らない人ばかりの地域のイベントには参加しづらい。交流を深めるイベントがあれば参加が増えるのではないかな。
⇒若者の手を必要としている地域とのタイアップ。
- 地域の活動に参加することは、社会に出る前の勉強になる。例えば、地域の活動にインターンとして送り、単位の認定要件にしてもいいのではないかな。

「中央区の特徴や課題についてのアプローチ」

意見交換会感想（古賀会長）

～4グループに共通することは次の3つ～

■若者

- ・キーワード：子ども会
※子ども会を経験した後、中学・高校と地域とのつながりがなくなる。
⇒子ども会の活性化が重要となる。
- ・担い手育成とは発見ではなく、育むということ。

■情報化（電子媒体）

- ・電子媒体は、バーチャルな話題だが、実際にそこで出てくるのは、切実な生活欲求（困り感）。
※例：ごみすてをどうするのか（横浜市のごみ分別アプリの利用状況。）
- ・LINE等を普及させていく鍵は、切実な困り感に寄り添うところにあるのではないか。
- ・電子媒体は、人と人とのつながりの中に置かないと難しい。

■マンション世帯＝そこに住んでいる家族のこと（人の話）

- ・人は本当に困ったことがないと動かない。
人が動くプロセス：必要があり動いたときに自己有用間を感じる⇒人の役に立ったという高揚感⇒社会と自分が繋がっていることを再確認する。
※少しずつステップアップする必要がある。
- ・地震以降地域が見直され、少しずつ交流ができてきたところもある。

ボランティアの情報提供
などのサポート